

現代高校生の雅楽の受容に関する一考察

～雅楽の魅力を届ける為に～

A Study of Modern High School students' Reception of *GAGAKU*
: To Let Them Feel an Attraction to *GAGAKU*

八代健志 (福井大学)

Takeshi YASHIRO (University of FUKUI)

(要旨)

筆者は、小学校教諭として、小学校児童に、音楽科の中でどのように雅楽に触れさせればよいのだろうか、と、研究してきた。年齢が進んで知覚・感受の力のついてきた現代の高校生は、いったいどのように雅楽を受け入れているのであろうか。その様子を調べることで、今後の音楽科における雅楽に関する学習の進む道を明らかに出来れば、と考えた。

雅楽部・神楽部を持つ高等学校に在籍し、しかし両部には在籍しない生徒たちを対象に雅楽に関するアンケートを実施し、その結果の考察から見えてきたものについて明らかにしたい。

(キーワード)

雅楽、現代高校生、受容

1. はじめに

小学校の教員として音楽を教えてきた37年間、児童らの音楽観を拡大させ、文化相対主義的な音楽の捉え方を身に付けさせたいと自分なりに努めてきた。

そのような教育実践の中で、日本伝統音楽も取扱い、少しでもその魅力を伝えたいと願ってきた。お祭りのお囃子、民謡、箏・尺八・三味線の音色、端唄、能ほか、網羅できたとは言いがたいが、広く紹介したいと思っていた。その中でも雅楽(神楽や朗詠も含んでのもの。本論中以下同様)に関しては、子どもたちの反応が今一つ良くなくて、「(テンポが) ゆっくり過ぎる」「主旋律が聴き取れない」という声や、「お正月に」、または「神社で」、「聴いたことしかない」という感想を記す子が多く見受けられた。

小学生の子どもたちにとっては、この「テンポのゆっくりしていて、主たる旋律が聴き取りにくい」ところが一番の指導上(就中、興味づけ)のネックであるように経験的に感じていた。そこで筆者は、本学会に於いて、そのような学びを阻害する要因の軽減を視野に入れる形で、雅楽の主たる旋律の聴取を指導内容として、小学校6年生に対する雅楽の授業「『陪臚』に歌詞を付けて歌おう」を基に、既に研究論文を発表したところである。

その研究も踏まえ、今回調べようとしたのは、もう少し年齢が上がって、知覚・感受の力がさらについてくる中学校・高校の生徒たちにおいては、どのように雅楽が受け取られているか、ということである。

また、この現代の中学・高校生への雅楽の受け取られようをきちんと知ること、我が国で千数百年の歴史を持つ雅楽について、小中（高）の時期にどのような雅楽との出会わせ方が必要なのかについて、一步前進できるのではないだろうかとも考えた。

今回アンケートに協力してくれた生徒達の在学する浪速学院（＝浪速中学校・高校）は、私立の神道系の学校で、校地の中に神社を有している。通っている生徒たちは、神道との関連が特に深いという訳ではなく、（もちろん、実家が神社、寺院という生徒も一部にいるが）、一般的な中・高校と言ってもいいと思われる。

ただ、クラブ活動に「雅楽部」「神楽部」を持ち、創部20年の歴史を持つ雅楽部の実力は、名にし、負う、かの天理高校雅楽部に次いで近畿圏No.2といわれる実力を持っている。その為、校内で雅楽の調べを聴く機会は一般的な中高生よりは多いかもしれない。「雅楽とは、…」と、改まって具体の音源や概念を提示・説明することなく今回のアンケートの設問に入って行ける「利点」を持つ、と考えた。

さて、この浪速学院は、2016年5月校舎と学院神社の新築（改築）竣工を記念した式典を開催し、その次第の中で、新作の神楽「学院神楽尚学の舞」を奉納した。この時参加の全校生徒に自校オリジナルの神楽（雅楽）の演奏を聴かせる機会を持った事になる。

筆者は、この式典に参加させて頂いて、雅楽部・神楽部、そして朗詠する役を務めた合唱部の生徒たちに取材した。また、合わせて、一般的なそれら演奏・奉納に直接関係しなかった生徒たちの姿も知りたいと思い、関係者の協力を得て、アンケートを依頼し回答を得た。

2. 研究の目的

現代の高校生が雅楽（神楽・朗詠等を含む）をどのように受容しているのか、知る。合わせて可能ならば、その受容のありようから、雅楽を教育現場でどのように指導していけばよいのかについての何ら

かのヒントを得る。

3. 研究の方法

浪速高校の「一般的」生徒（＝雅楽部もしくは神楽部所属でない生徒＝）に対し、下記6つの設問からなる無記名アンケートを実施し、回答結果を分析し、彼らが雅楽（神楽・朗詠等含む）をどのように受け取っているのか、それぞれの受容の様子を探る。
＜6つの設問＞—————

1 今日演奏された神楽（かぐら）は、新校舎の完成を祝い、学院神社の神様に感謝をささげる意義や目的を持つものでした。このことについて、あなたは？

選択肢＝よく知っていた・まあまあ・全然知らなかった＝

2 「神楽」そのものに対してお尋ねします。

① 「神楽」という言葉を聞いたことはありましたか？どんなところで？どんなものだと理解していましたか？

② 「神楽」について実際の音（音楽）はどのようなものを想像していましたか？

3 神楽の演奏をききながら、どのようでしたか？例えば頭の中に映っていたものやその時の気持ち・気分、また、その思いが音楽のどんな特徴から感じ取れたか。何とか頑張って書いて下さい。（今日の催しの意義や目的からやや離れてよい。音楽そのものの鑑賞として記して下さい）

4 日頃、「雅楽（神楽も含む）」の、その音や音楽としてのどんな特徴が好きですか？

5 今日の、「新しく創作された神楽（かぐら）」を聴きながらどんな事を考えていましたか？どのような感想を持ちましたか？出来るだけたくさん、思うがまま、好きなように書いて下さい。

6 あなたが日頃よく聴くと思っている音楽はどんなものですか？ジャンルだけでなくAKB…、みたいな演奏家名や、「花束」のように曲名で書いてもOK。4～7つぐらい書いて下さると有り難いです。

—————＜6つの設問以上＞

4. 調査の結果について

回答した高校1年生の3クラスの生徒<全126名>の中から、設問1で尋ねた、学院神社神楽が持つ意義や目的について、「全く知らなかった」と答えた29名の者について詳しく以降の設問への回答を見ていくことにする。

何故これら29名かということ、音楽としての雅楽に対する理解が乏しくて、雅楽に興味がなくとも、自分の通う学校の催しである、学院神楽「尚学の舞」についての理解が深ければ、自ずとそこで演奏された雅楽について前向きに（積極的に）聴こうとする意欲が生じ、その結果（意義・目的を知っている）彼らは、そういう側面からの近づき方で雅楽を、他の一般的な者より深く、且つ身近に捉える可能性があり、本研究の目的である、「現代の一般的な生徒は雅楽をどのように受容しているのか」というテーマに外れるかもしれないと考えたからである。

まず、設問4とした「日頃、『雅楽（神楽も含む）』の、その音や音楽としてのどんな特徴が好きですか？」への回答をみる。この質問の意図としては、以下の通りである。

浪速学院の生徒たちは、学校行事等の折に雅楽部の演奏を聴くこともあり、軽重はあっても、だいたいの「雅楽」のイメージを持ち、「雅楽？何？それ、」のようなことにはならないと思った。そこへ「好きですか？」と尋ね、自分の中にある雅楽への「いい」所を述べてもらおうと思った。

この設問4に対して、無答3人、分からない・好きじゃない・特にない。が4人。何らかの記述をした者が22人であった。先に述べた「雅楽」とはどういうものかが（概念として）（実演を聴いた直後でもある）ある程度分かっていたからであろう。何も分からなければここまで具体的には答えられないだろう。

22の回答を、音楽を構成する諸要素やしくみについて述べているものとしてざっくり分けて挙げると以下の通り。

三味線の音／和音（音の重なりを言おうとしている？）＝2名／高い音／ゆっくりなところ（マ）／少し上に長い笛（筆者注：笙のことか？）／ゆったりとしたメロディ／

そうでないものとして以下の通り。

日本的な楽器／日本風の音／日本らしい／日本独特の音／古い文化が伝えられていく／静かで落ち着く／柔らかい感じが好き／心が和む／激しいところ／音／素朴／上品な音／明るい／落ち着いている／

以上のように、的確に雅楽の良さを感じ取っているようである。

次に設問3についてその回答をみる。雅楽を聴いて何を受け取り、思い浮かべているのかという、まさに鑑賞の最大のポイントではないだろうか。並べ挙げる。

結婚式／自然を連想／感謝をしているような感じ／神社とかできいたな＝2名／落ち着いた＝2名／儀式をしているのが伝わる／日本的音楽。そんなに馴染みがある訳ではないのに何だか落ち着いた／日本庭園／日本の独特の文化だと／眠くなった／難しかった／踊っている気分／演奏をしている人たちはどんな気持ちだろうな、と想像していた／あまり良くなかった／嬉しく思った／伊勢に行った時踊ったのを思い出した／江戸時代へタイムスリップ／日本語が難しかった／古代の日本を想像／神様の前で踊るような音楽だ／動きに強弱があった／何も感じない＝2名／分からない＝2名／記述無し＝2名／

これらもまた的確に雅楽の魅力から導き出された感想が持っている。

ところで、「神楽」という雅楽の中に含まれる狭い概念を知っていたか、という設問2について、全126名の回答を催しの意義を「知っていた・少し知っていた」（対照群と呼ぶ）群97名と、「全く知らなかった」（比較群）群29名と比べてみる。

続けて日頃どのような音楽を愛好しているかという設問6に対する回答を列挙する。

EXILE, GENERATIONS, バックナンバー、／
Mr. Children, GReeeeen／EXILE, GENERATIONS 三代目

Jsouibrothers/米津玄帥、コブクロ、Mr. Children
/スパークル、前前前世/B'z、モンパチ/邦ロック
/バンプオブチキン/ダブステップ、REMIX/音楽
ゲームの曲/K-ポップ、EXO/

Dolaculala, Adventure, Drosky/クラシックやジ
ャズやブルースなど/洋楽日本人が歌っていても歌
詞が英語の曲が好き/EXILE、GENERATIONS、三代目
Jsouibrothers/セカオワ、Every little thing、B'
z/BABY Metal、バックナンバー、雨のパレード/
ジャニーズWEST/バックナンバー/西野カナ/
邦ロック系統です/市立恵比寿中学/バックナンバ
ー、クリープハイブ女の子/イノセントワールド、
星野源の恋/HoneyWorks, KANA-Boon/。

設問として最後に位置するこの問いは、残念ながら
時間切れで2割ほどの生徒が無答で終わっている。
ただ、多くの記述から一覧して分かるように（一言
で括ることには抵抗も持つが）「ポップス」「はやり
歌」という感じで商業ベースに乗った音楽の数々と
よんでもよいかと思う。この傾向は「学院神社神楽
尚学の舞」の意義を知っていた生徒とほとんど変わ
らない。

そこで、別途、雅楽部に催しの後をお願いしたア
ンケートにおける同様の質問「あなたが日頃よく聴
くと思っている音楽はどんなものですか？ジャンル
だけでなくAKB、みたいな演奏家名や「花束」
のような曲名でもOK。数多く書いて下さる方がウ
レシイ。」に対する回答をみてる。

バンドのユニゾンスクエアガーデンの曲やネット
音楽（ボーカロイド）をカバーしたものをよく聴き
ます。和テイストも好きです。/OLDCODEX
というバンドが好きです。ロックをけっこう聴きま
す/嵐/アニメソング、Jポップをピアノで演奏し
たもの、合唱曲/365日の飛行機/J-POP、セカ
オワ、ボカロ/ピアノアレンジした曲、洋楽/洋楽
/ボーカロイドの曲を作ってユーチューブに投稿し
てる人たちの曲/J-POP、J-ROCK。少な
くとも家では雅楽や神楽などは聴きません/洋楽/
また、神楽部生徒には、「日頃親しんでいる音楽は

どのようなものですか？できればその楽しみ方含め
詳しく」と尋ね方が少し違うけれど回答は以下の通
り。

J-POPなど幅広く聴いています。たまに雅楽
も聴きます/K-POP…今語学の勉強をしている
のでそれもついでに楽しんでいます。洋楽…これも
勉強と同様に一緒に楽しんで聴いています。/K-
POP…気分を上げる時に/K-POPノリノリに
なりたいたい時に。ロック…帰り道。V系…気持ちが高
まっているとき。テスト勉強のとき/ジャニーズ、
ラドウィンプス、ONE OK ROCK。ディズ
ニーの曲、アニメソング/クラシックやJ-PO
P、アニメなど広範囲にわたり聴いている/J-PO
P、クラシック・勉強や通学時/J-POP、
K-POP、洋楽/J-POP/洋楽、クラシッ
ク/J-POP…テレビで流れていたら聴く程度。
CDを買う時もある。/

さすがにと言うべきか、例えば「クラシック」「雅
楽」が顔を出していることや、ボーカロイドを挙げ
る「新しいもの好き」とか、少し違う傾向の見て取
れなくはない。

5. 考察

以上のように「4.」でみてきたことを、どのよう
に解釈するのかであるが、まず彼ら126名ほとんど
は、『ポップス』と呼ばれるような商業主義音楽（＝
少し古臭い言い方だがとりあえずこのように呼ぶ）
を、多くの生徒が愛好していた。今どきの高校生と
呼んでいいと考える。その事は今回対象のアンケー
ト外で得た雅楽部の愛好する音楽とは違いを見せて
いることから傍証できると考える。

しかしそれに対し、「学院神社神楽尚学の舞」について
全くその意義を認識していなかった者29名でさえ、
神楽・雅楽に於ける、音楽としての特徴をしっかりと
らえていることが驚きであった。もちろんそれ以
外の96名にもきちんととらえられていた。雅楽・神
楽という音楽の『知覚』について優れていると言っ
ていい。

そして、『感受』に於いても、同様29名含め、その知覚した雅楽・神楽を構成する音楽的要素としくみを使って感想が言えている。

嗜好に於いて「ポップス」と呼ばれるような商業主義音楽（古臭い言い方であるが）を愛好しているが、雅楽の魅力について知覚・感受できる生徒たちの育った環境は、家庭に於いてはさまざまであろう。

しかし、学院内に神社を持ち、登下校の際その前で社に一礼する習慣があること、1年時に箏箏を吹く経験を全員にさせること、校内で雅楽部の練習する音が漏れ聞こえること、その雅楽部の演奏を時折校内行事で聴く機会があること、などの豊かな経験を経て、これら雅楽・神楽の知覚と感受が豊かに出来るようになったように感じられる。

6. 結論

今回のアンケートに協力してもらった高校生たちは雅楽（神楽・朗詠等を含む）についてその知覚・感受を豊かに出来ていた。その受容のありようから、雅楽も教育現場で、常に傍にあるものとする環境を整えれば、その事が可能になるのかもしれない。

7. 今後の課題等

調査校の生徒について、「一般的」と思いこみ調査したが、少しその意味で調査校の生徒が「特別」であったかもしれない。

雅楽をあまり受け入れきれていないと思われる生徒に対し、今回同様の調査研究が必要ではないかということ、今後の課題としたい。